

小説「ドリアン・グレイの肖像」 におけるワイルドの修辞表現 II

三 嶋 君 夫

Similes and Metaphors Used in *The Picture of the Dorian Gray* by
Oscar Wilde (II)

MISHIMA Kimio

序

先稿「ワイルドの修辞表現」においては小説「ドリアン・グレイの肖像」の文中に表れる比喩表現、特にメタファーとシミリに言及し、物語そのものとの関わりについて論述した。その結果、ワイルドはメタファーを用いて単一の概念にさまざまな側面から部分的な構造を加味し、読者により新鮮な概念を付加しているように思われた。

そのうえ、視覚を挑発し感覚器官に訴えるそれらの言葉の数々は、多くの読者を小説の領域からまるで絵本のような絵画的空間へと誘う創造的要素になっていると想定できる。先稿で論じたように、まさにメタファーそのものが唯美主義者ワイルドの本質の具現化であり、ストーリーテラー、ワイルドの文彩を活性化させる生きた細胞となっているようである。それはまた、アリストテレスの時代から多くの人々の思考に特別な喚起を促し、想像以上に人を悩まし、あるいは歓喜させ続けた創造性の明瞭な表現と捉えることも可能である。

十九世紀イギリス世紀末においても同様に、言葉を修飾する文体は人々の心に動揺を与え続けた。小説「ドリアン・グレイの肖像」の文中に脈うつレトリックの魔力は当時の社会に多くの波紋をなげかけ、そのモラルを根底から揺るがすものであったに違いない。

アメリカの言語学者レイコフ氏はジョンソン氏との共著“*Metaphors We Live By*”の中で次のように述べている。

言語活動のみならず思考や行動にいたるまで、日常の営みのあらゆる
ところにメタファーは浸透しているのである。われわれが普段ものを

考えたり行動したりする際に基づいている概念体系の本質は、根本的にメタファーによって成り立っている⁽¹⁾のである。

さらに、小説「ドリアン・グレイの肖像」第二章には、ドリアンの言葉を借りて次のようなことが記載されている。

They seemed to be able to give a plastic form to formless things, and to have a music of their own as sweet as that of viola or of flute. Mere word! Was there anything so real as words? (p.26)

言葉は無形の事物に人工的な形を与え、ヴィオラやフルートの音にも劣らぬ甘美な調べを奏でることができる。ただの言葉！ いったい言葉ほど生々しいものがほかにあるのだろうか。

いずれも、言語のもつ特性がその人の思考や行動に深く関与し、その人の想像力を増すことで、不在からある事物を再現する可能性を秘めているのである。

第八章の肖像画の画布上でおこる化学的な原子変化と魂との相関もこのことに準じるものと思われる。原文には次のように記載されている。

Was there some subtle affinity between the chemical atoms that shaped themselves into form and colour on the canvas, and the soul that was within him? Could it be that what that soul thought, they realized? —that what it dreamed, they made true? (p.108)

画布上で形態と色彩を帯びているこの化学的な原子と自分の内なる魂との間に何か微妙な相関が存在するのであろうか。魂が考えることを原子が実現し、魂の夢を原子が現実化しているとも言えるのだろうか。

つまり、ドリアンの魂の祈りが肖像画に通じ、絵の中の画布上の原子がそれを実現したということになる。このモチーフを小説とそれを読む読者に置き換えると、ワイルドのメタファーによる修辞表現が読者の心的な変化を生む可能性を疑う余地はない。そしてまた、このモチーフはヴィクトリア社会のモラルに対するワイルドのレトリックを手段とした挑戦とも受け取れるのである。

小説の中で第一章から第七章は新ヘドニストを目指したドリアン・グレイがヘンリー卿

の預言した生命の再創造を行う過程を描いたものであり、当時の厳格一点張りの清教主義に染まりかけた自己の生命を救おうと活動を開始した時期にあたるものであった。それは肖像画によって自己の「生」を認識したドリアン・グレイが人生の瞬間、瞬間に自己を集中させ新しい感覚を得ようと努力する姿にも相当するものである。

メタファーによって大きく彩り誇張されたドリアンの人生は、読者に新しい感覚を印象づけていったものと想定できるであろう。それこそが新感覚であり新しい快樂主義に他ならなかった。

先稿において beauty, life などに代表される抽象的な事象でさえメタファーを用いることでその属性に対する大きな感化を高め、新感覚への靈化を印象づけることに成功している。その文例をあげると次のようになる。

1. *Life* suddenly became *fiery-coloured* to him.⁽²⁾
2. *Beauty* is a *form* of Genius—is higher, indeed, than Genius, as it needs no explanation.⁽³⁾
3. *Life* having its elaborate masterpieces, just as *poetry* has, or *sculpture*, or *painting*.⁽⁴⁾
4. Tremulous branches seemed hardly able to bear *the burden* of a *beauty* so flame-like as theirs.⁽⁵⁾
5. The praise of folly, as he went on, soared into a philosophy, and Philosophy herself became young, and catching the mad music of Pleasure, wearing, one might fancy, her wine-stained robe and wreath of ivy, danced like a Bacchante⁽⁶⁾ over *the hills of life*, and mocked the slow Silenus for being sober.
6. Most people become bankrupt through having invested too heavily in *the prose of life*.⁽⁷⁾
7. Every *night* of my *life* I go to see her act.⁽⁸⁾
8. To note the curious hard logic of the passion, and the emotional coloured *life* of *the intellect*.⁽⁹⁾
9. Whose sorrows stir one's *sense* of *beauty*, and whose wounds are like red roses.⁽¹⁰⁾
10. He thought of his friend's young *fiery-coloured life*, and wondered how it was all going to end.⁽¹¹⁾
11. Beautiful *sins*, like beautiful things, are the privilege of the rich.⁽¹²⁾
12. Grace was his, and the white purity of boyhood, and *beauty* such as old Greek *marbles* kept for us.⁽¹³⁾
13. If she knows as little about *life* as she does about *acting*.⁽¹⁴⁾

このように、メタファーは擬縮された直喩であり、芸術至上主義を実践するワイルドの「生」を大いに表出する技法の一つとも考えられる。そしてそれは、言葉を飾る文体をはるかに超えて「美への献身」、「美的観照」に徹する「生」を生き続けるドリアンの生きる哲学の確かな証左とも言えるのではないだろうか。本稿では先稿に引き続き、第八章から第十三章に至る物語の中でメタファーとシミリをその文法的構造から分類し、この作品への効果を考察していくものである。

2

メタファーとシミリについて、先稿と同様に池田拓郎著「英語文体論」を参考とし主体とのかかわりの中でその属性を考慮し文法的分類を試みる。分類に際し主体になるものをA、客体になるものをBと表記する。さらに、主体、客体を示す語、句、節、文において、主体には二重線、客体には下線を引くこととする。また、一つの文中で主体に対し複数の表れる客体には波線を引くものとする。

分類は1. A = B (Aの性質をBで説明)、2. A has B (Aの持つ属性をBで表わす)、3. B of A、4. BA (Bを形容詞的)、5. Like によるシミリ、6. As によるシミリ、7. as if /as thoughによるシミリ、とするが一つの文中にメタファーとシミリを含む文もあえて重複し引用することとした。また、メタファーとシミリについては画然として一線を引けないものもあることを明記しておきたい。

本稿で取り扱っている章は第八章から第十三章までであり、その中にはとりわけ特徴的な第十一章を含んでいる。この章では香料、楽器、宝石、装飾品、刺繍細工、タペストリーなどの質、量ともに豊富なコレクションが様々な言葉で彩られドリアン消費快楽主義に拍車をかけている。ここに、新しい快楽主義のひとつの佳境が修辞表現によって華やかさを増していると言っても過言ではない。

このような物語の特性を考慮し、ここでは各章ごとにその文法的分類を明記し、移行行くドリアン心の变化を探っていきたい。

Chapter 8

The warm air seemed laden with spices. (p.107) A has B
(暖かい空気は香辛料の荷を積んでいるようだ。)

His unreal and selfish love would yield to some higher influence, would be transformed into some noble passion. (pp.108-109) A has B
(彼の非現実的で利己的な愛はより高次なある影響に屈しある高貴な情熱となって生まれ変わるだろう。)

The portrait that Basil Hallward had painted of him would be a guide to him through life, would be to him what holiness is to some, and conscience to others, and the fear of God to us all. (p.109) A has B

(バジル・ホールウォードが描いた肖像画は人生を通して彼を導き、自分にとっては、ある人に対する神聖さ、また他の人に対する良心、そして全ての人に対しては神に対する畏怖になるだろう。)

There were opiates for remorse, drugs that could lull the moral sense to sleep. (p.109)
A has B

(悔恨には鎮静剤がある。そしてそれは良心を鎮めて眠らせる麻薬である。)

The scarlet threads of life. (p.109) B of A
(人生の深紅の糸。)

The sanguine labyrinth of passion. (p.109) B of A
(情熱の血走った迷路。)

He covered page after page with wild words of sorrow, and wilder words of pain. (p.109)
B of A

(悲しみの激しい言葉、そしてそれよりも激しい苦痛の言葉を何枚も書き連ねた。)

It is the confession, not the priest, that gives us absolution. (p.109) A = B
(人間の罪状を消滅させるのは牧師ではなく告白である。)

It is the divinest thing in us. (p.110) A = B
(良心は私たちの中にあるもっとも聖なるものである。)

I can't bear the idea of my soul being hideous. (p.110) B of A
(私は自分の魂が醜悪であることに耐えられない。)

In London people are so prejudiced. (p.111) A = B
(ロンドンでは、人々は偏見屋ざろいである。)

She looked such a child. (p.112) A = B
(彼女はまるで子どものようである。)

"So I murdered Sibyl Vane," said Dorian Gray half to himself- "murdered her as surely as if I had cut her little throat with a knife." (p.112) as if
(ぼくがシビル・ヴェインを殺してしまったと、なかば独り言のようにドリアン・グレイは言った。それはナイフで彼女の可愛い喉を切ったことと同様なのだ。)

Yet the roses are not less lovely for all that (p.112) (all that=Sibyl Vane herself) A = B
(それなのに、シビル・ヴェインのバラの美しさはひとつも減りはしない。)

Can they feel, I wonder, those white silent people we call the dead? (p.112) B A, A = B
(いったい、使者と呼ばれるあの白い無言の人々に感覚があるのだろうか。)

I remember your saying once that there is a fatality about good resolutions. (p.113)

A has B

(私はあなたがかつて言った言葉、つまり善良な決意に一つの宿命が時期を待っているという言葉を覚えています。)

“Good resolutions are useless attempts to interfere with scientific laws.” (p.113) A = B

(良き決意というのは、科学的な法則に干渉する無駄な試みにすぎない。)

They are simply cheques that men draw on a bank where they have no account.

(p.113) (they=good resolutions) A = B

(良き決意は、預金もしていない銀行の小切手のようなものである。)

The terrible beauty of a Greek tragedy. (p.114) B of A

(ギリシャ悲劇の恐ろしい美。)

It often happens that the real tragedies of life occur in such an inartistic manner that they hurt us by their crude violence, their absolute incoherence, their absurd want of meaning, their entire lack of style. (p.114) B of A

(人生の現実的な悲劇はそのような非現実的なやり方でおこる。その野蛮な暴力、全くの不統一、意味とスタイルとの全くの欠如によって人間を傷つける。)

They affect us just as vulgarity affects us. (p.114) as

(卑俗さに影響を受けるのと同じように私たちはそれに影響を受ける。)

A tragedy that possesses artistic elements of beauty. (p.114) A has B

(美の芸術的要素を持つ悲劇。)

What an utter intellectual stagnation it reveals ! (p.115) A has B

(それはなんとひどい知性の沈滞を暴露しているのだろう。)

Life has always popies in her hands. (p.115) A has B

(人生はいつもその手にけしの花を持っている。)

Violets all through one season, as a form of artistic mourning for a romance that would not die. (p.115) as

(ひとつの季節以外、すみれの花だけを身につけていたが、それは永久に死に絶えることがないあるロマンスに対する一種の芸術的喪章だった。)

I had buried my romance in a bed of asphodel. (p.115) B of A

(わたしは、ロマンスを水仙の花壇に埋めてしまった。)

One charm of the past. (p.115) B of A

(過去の魅力。)

They flaunt their conjugal felicity in one's face, as if it were the most fascinating of sins.

(p.116) as if

(彼らは自分の結婚生活の無常なる幸せを人の眼前でこれ見よがしにひけらかす。あたかも、それがもっとも魅力的な罪悪でもあるかのように見せびらかす。)

Its mysteries have all the charm of a flirtation. (p.116) A has B

(宗教の秘儀は愛儀の魅力が全て含まれている。)

Conscience makes egotists of us all. (p.116) A = B

(良心はすべての人間を自己中心者にする。)

There is something to me quite beautiful about her death. (p.116) A has B

(わたしにとっては、彼女の死はどことなく美しいところがある。)

They make one believe in the reality of the things we all play, such as romance, passion, and love. (p.116) (they=wonders) A = B

(たとえば、ロマンスだとか情熱だとか、恋愛だとかいった遊びをする現実を信じたいくなる。)

The heroines of romance. (p.116) B of A

(ロマンスのヒロイン。)

To you at least she was always a dream, phantom that flirted through Shakespeare's plays and left them lovelier for its presence, a reed through which Shakespeare's music sounded richer and more full of joy. (p.117) A = B

(少なくとも君にとっては、あの女は常に夢であり、シェイクスピアの劇のなかを次から次へと漂い移り、そのなかに現れて劇を美しくした亡霊なのだ。それを吹けばシェイクスピアの音楽が豊かさを増し、歓喜をつのらせる葦のようなのだ。)

With silver feet, the shadows crept in from the garden. (p.117) A has B

(銀色の足をした影が庭から忍びこんだ。)

Love would always be a sacrament to him now. (p.119) A = B

(いまや愛こそは彼にとって聖なる儀式なのだ。)

The portrait was to bear the burden of his shame. (p.119) B of A

(肖像画が彼の恥辱の重荷に耐えていくことになった。)

Boyish mockery of Narcissus. (p.119) B of A

(ナーシサスの男の子のような冷笑。)

This portrait would to him the most magical of mirrors. (p.120) A has B

(この肖像画は彼にとってもっとも魔術的な鏡になるだろう。)

As it had revealed to him his own body, so it would reveal to him his own soul. (p.120)

(it=portrait) A = B

(それがこれまで彼の肉体を開示したように、彼自身の魂を開示することになるだろう。)

A pallid mask of chalk with leaden eyes. (p.120) B of A

(活気の無い鉛色の眼をもつ白亜の仮面。)

Like the gods of the Greeks, he would be strong, and fleet, and joyous. (p.120) like

(ギリシャの神々のごとく、強く、敏捷で歓喜にあふれていることだろう。)

Chapter 9

Little white body of hers. (p.122) B of A

(彼女の小さい白い体。)

A man who is master of himself can end a sorrow as easily as he can invent a pleasure.

(p.122) A = B

(自らの主人である人間は自由に喜びを作り上げることもできるし、悲しみを終わらせることもできる。)

You talk as if you had no heart, no pity in you. (p.122) as if

(あなたが話すのを聞いていると、まるで哀れみが無いように聞こえる。)

The great romantic tragedies of the age. (p.123) B of A

(現代の大ロマン悲劇。)

They are good husbands, or faithful wives, or something tedious. You know what I mean—middle-class virtue. (p.123) A = B

(彼らは良き夫であり、貞淑な妻であり、退屈な存在である。わたしの言っていることが分かるだろう。つまりそれが中流階級の美德なのだ。)

She lived her finest tragedy. (p.123) A has B

(彼女は自分の素晴らしい悲劇を身をもって生きた。)

She was always a heroine. (p.123) A = B

(彼女は、いつでもヒロインであった。)

The reality of love. (p.123) B of A

(愛の現実。)

When she knew its unreality, she died, as Juliet might have died. (p.123) (its=love's) as

(愛の非現実を知ったとき、彼女は死んだ。まるでジュリエットが死ぬかのように。)

The sphere of art. (p.123) B of A

(芸術の世界。)

There is something of the martyr about her. (p.123) A = B

(彼女はどことなく殉教者めいたところがある。)

Her death has all the pathetic uselessness of martyrdom, all its wasted beauty. (p.123)

A has B

(彼女の死は、殉教の痛々しい無益さ、その徒勞の美が全て備わっている。)

Was it nor Gautier who used to write about *la consolation des arts*? (p.124) A = B

(芸術の慰めについて書いたのはゴーチェではなかったのか。)

The miseries of life. (p.124) B of A

(人生の悲惨。)

The suffering of life. (p.124) B of A

(人生の苦しみ。)

I have new passions, new thought, new ideas. (p.124) A has B

(わたしは新しい情熱、新しい思想、新しい観念を持っている。)

His indifference was probably merely a mood that would pass away. (p.124) A = B

(彼の冷淡さはすぐに消滅してしまうひとつの気分にはすぎない。)

He had never seen him like this before. (p.126) like

(彼はいままでにこのようなドリアンを見たことがなかった。)

Pallid with rage. (p.126) B A

(怒りの蒼白。)

The pupils of his eyes were like disks of blue fire. (p.126) like

(彼の眼の瞳孔は青い炎の円盤のようであった。)

The mystery of his life. (p.126) B of A

(人生の神秘。)

He felt that he was on the brink of a horrible danger. (p.127) B of A

(彼は恐ろしい危険のがけっぶちに立っていた。)

You people who go in for being consistent have just as many moods as others have.
(p.127) as

(君のように筋を通すことに堅実な人間でも、他の人間同様にむらっけがある。)

A gleam of light. (p.127) B of A

(ひとすじの光。)

We have each of us a secret. (p.127) A has B

(わたしたちは互いに秘密を持っている。)

You became to me the visible incarnation of that unseen ideal whose memory haunts
us artists like an exquisite dream. (p.128) like

(芸術家の心には見えざる理想の追憶が精美な夢のように去来し続けるのだが、君はわたしにとって理想の権化となった。)

When you were away from me you were still present in my art. (p.128) A = B

(君がわたしから離れているときも、君は依然として私の芸術の中に存在した。)

I had drawn you as Paris in dainty armour, and as Adonis with huntsman's cloak and polished boar-spear. (p.128) as

(わたしは、華麗な鎧に身を固めたパリスとして、また狩人のマントを着て磨き上げた猪槍をもったアドニスとして君を描いてきた。)

The costume of dead ages. (p.129) B of A

(死んだ時代の衣装。)

Art is always more abstract than we fancy. (p.129) A = B

(芸術はわれわれが想像する以上に抽象的なものである。)

My life as an artist. (p.131) as

(画家としてのわたしの人生。)

There is something fatal about a portrait. (p.131) A = B

(肖像画は運命的なところがある。)

It has a life of its own. (p.131) (it=portrait) A has B

(肖像画にはそれ自身の寿命がある。)

Chapter10

It was like a placid mask of servility. (p.132) (It=Victor's face) like

(ヴィクターの顔は動揺ひとつ示さない奴隷の仮面そっくりである。)

Black silk dress. (p.132) B A

(黒い絹のドレス。)

Purple satin coverlet heavily embroidered with gold. (p.133) B A

(金糸で刺繍した紫色のサテンの覆い。)

It had perhaps served often as a pall for the dead. (p.133) (It=Coverlet) as

(おそらく、覆いは死者の棺覆いとしてたびたび使われた。)

It was not that mere physical admiration of beauty that is born of the senses, and that dies when the senses tire. (p.133) (Basil's love) A = B, B of A

(バジルの愛は感覚から生まれ、感覚が疲れてしまえば死滅してしまう単なる肉体的な美の賞賛ではない。)

It was such love as Michael Angelo had known, and Montaigne, and Winckelmann, and Shakespeare himself. (p.133) (It=Basil's love) as

(バジルの愛は、ミケランジェロやヴィンケルマン、そしてシェイクスピア自身が知っていたような愛である。)

There were passions in him that would find their terrible outlet, dreams that would make the shadow of their evil real. (p.133) A has B

(ドリアンの中には多くの情熱があり、それはいつか恐るべきはけ口を見つけその悪徳の影を現実のものとするだろう。)

Great purple-and-gold texture. (p.134) B A

(大きな紫と金の織物。)

Gold hair. (p.134) B A

(金色の髪。)

Blue eye. (p.134) B A

(青い眼。)

Rose-red lips. (p.134) B A

(ばらのように赤い唇。)

A florid, red-whiskered little man. (p.134) B A

(血色のよい赤い頬ひげを生やした小柄な男。)

Blass chains. (p.135) B A

(真鍮の鎖。)

The stainless purity of his boyish life. (p.136) B of A

(孤独な少年の純粋さ。)

There was no other place in the house so secure from prying eyes as this. (p.136) as

(家の中にはこの部屋のようなせんさく好きの人目から逃れられるに適した場所はない。)

Purple pall. (p.136) B A

(紫色の衣。)

He kept his youth. (p.136) A = B

(彼は若さを保った。)

The scarlet sensitive mouth. (p.137) B A

(感性に富んだ深紅の口。)

Yellow crow's-feet. (p.137) B A

(黄色い小じわ。)

Those curious unpictured sins whose very mystery lent them their subtlety and their charm. (p.137) A has B

(まさにその神秘さによって精妙な味と魅力が生じる奇妙な罪悪。)

The mouth would gape or droop, would be foolish or gross, as the mouths of old men are. (p.137) as

(口はうす馬鹿のように半びらきとなり老人の口と同じようになるだろう。)

Blue-veined hands. (p.137) B A

(青い静脈。)

The secret of his life. (p.137) B of A

(人生の秘密。)

Yellow paper. (p.138) B A

(黄色い紙。)

A red pencil-mark. (p.139) B A

(赤鉛筆のしるし。)

Red pencil. (p.139) B A

(赤い鉛筆。)

Yellow book. (p.139) B A

(黄色い本。)

Pearl-coloured octagonal stand. (p.139) B A

(真珠色の八角形の小卓。)

That had always looked to him like the work of some strange Egyptian bees that wrought in silver. (p.139) like

(この小卓を見るたびに、いつも彼はエジプトあたりの蜜蜂が作る銀色の巣のように思うのだった。)

It seemed to him that in exquisite raiment, and to the delicate sound of flutes, the sins of the world were passing in dumb show before him. (p.139) A = B

(あたかも、世のあらゆる罪悪が精妙な衣をまとい、繊細なフリユートの調べにつれて彼の目の前を默劇のように通り過ぎていくように思われた。)

Those renunciations that men have unwisely called virtue, as much as those natural rebellions that wise men still call sin. (p.140) A = B

(人が愚かにも美德と呼んでいる自制を、賢人が罪と呼んでいる背徳同様に十分に。)

The style in which it was written was that curious jeweled style. (p.140) A = B

(この文体は不思議な珠玉のような文体で書かれている。)

There were in it metaphors as monstrous as orchids, and as subtle in colour. (p.140) as

(蘭を思わせるような怪奇で隠微な色彩を帯びた隠喩がいくつも含まれていた。)

The life of the senses. (p.140) B of A

(感覚の生活。)

The spiritual ecstasies of some medieval saint or the morbid confessions of a modern sinner. (p.140) B of A

(中世の聖者の霊的恍惚を書いたものなのか、現代を生きる罪びとの告白の書なのか。)

The heavy odour of incense. (p.140) B of A

(香料の強烈な匂い。)

A form of reverie. (p.140) B of A

(幻想の形。)

A malady of dreaming. (p.140) B of A

(夢の疾病。)

A copper-green sky. (p.140) B A

(青銅色の空。)

Chapter 11

Grotesque dread of mirrors, and polished metal surfaces, and still water. (p.142) B of A

(鏡や磨き上げられた金属の表面や静止した水面の怪奇な恐怖。)

It was with an almost cruel joy...and perhaps in nearly joy, as certainly in every pleasure, cruelty has its place...that he used to read the latter part of the book. (p.142) as, A has B

(快樂には必ず残酷さが混じっているように、おそらくいかなる歓喜にも残酷さが混じっている。彼は、この本の後半をほとんど残酷なまでの喜びで読んだ。)

The purity of his face. (p.143) B of A

(彼の顔の純粋さ。)

His mere presence seemed to recall to them the memory of the innocence that they had tarnished. (p.143) A = B, B of A

(彼の単なる存在が人々の心には白らが汚した潔白の記憶がよみがえる。)

White hands. (p.143) B A

(白い手。)

He had mad hungers that grew more ravenous as he fed them. (p.144) A has B

(彼は、えさを与えるとますます食欲を増す空腹を持っていた。)

There were many, especially among the very young men, who saw, or fancied that they saw, in Dorian Gray the true realization of a type of which they had often dreamed in Eton or Oxford days, a type that was to combine something of the real culture of the scholar with all the grace and distinction and perfect manner of a citizen of the world. (p.144)

A = B

(多くの人々は、ことに青年は自分たちがイートンやオックスフォードで夢見たタイプの具現化をドリアン・グレイの中に見た、いや見たと思った。それは学者の持つ真の教養と一般人としての優美と卓越と完璧な礼儀を兼ね備えたタイプだった。)

To them he seemed to be of the company of those whom Dante describes as having sought to 'make themselves perfect by the worship of beauty'. (p.144) as

(ダンテの言う「美の崇拜によって自分自身を完璧にする。」ように努力した人間の一人であるように思えた。)

Like Gautier, he was one for whom 'the visible world existed'. (p.144) like

(ゴッティエ同様、彼は「可視的な世界がある。」人間の一人であった。)

To him Life itself was the first, the greatest, of the arts, for it all the other arts seemed to be but a preparation. (p.144) (it=Life) A = B

(彼にとって人生こそあらゆる芸術の中で第一のものであり、もっとも偉大なものであった。すべての芸術は、この人生という芸術に対する準備でしかないように思えた。)

He sought to elaborate some new scheme of life that would have it reasoned philosophy and its ordered principles. (p.145) A has B

(彼は合理的な哲学と整然たる原理をもったある新しい人生観を作り上げようとしていた。)

The true nature of the senses. (p.145) B of A

(感覚の真実の姿。)

The beasts of the field as his companions. (p.146) as

(友としての野獣。)

Of the asceticism that deadens the senses, as of the vulgar profligacy that dulls them, it was to know nothing. (p.146) as

(感覚を麻痺させる禁欲主義は感覚を鈍くさせる野蛮な放蕩同様、それは知るすべもない。)

The chambers of the brain. (p.146) B of A

(頭脳の部屋。)

Dumb shadows. (p.146) B A

(無言の影。)

White fingers. (p.146) B A

(白い指。)

The sigh and sob of the wind. (p.146) B of A

(風のため息とすすり泣き。)

As though it feared to wake the sleepers, and yet must needs call forth sleep from her purple cave. (p.146) as thought

(それは眠っている人を起こすのは恐ろしいが、紫色の洞窟から眠りを呼び出さすにはおれない。)

Veil after veil of thin dusky gauze. (p.146) B of A, B A

(ほの暗い紗のヴェールの一枚一枚。)

The wan mirrors get back their mimic life. (pp.146-147) A has B
(血の気のない鏡が模倣の命を取り戻す。)

The unreal shadows of the night. (p.147) B of A
(夢のような夜の影。)

In no conscious form of obligation or regret, the remembrance even of joy having its bitterness, and the memories of pleasure their pain. (p.147) B of A, A has B
(義務や後悔の意識的な形においてはもはや存在しない。喜びの記憶でさえ悲痛が伴い、
快樂の思い出にも苦痛が伴う。)

The creation of such worlds as these. (p.147) (these=the remembrance even of joy having its bitterness, and the memories of pleasure their pain) as
(こういうような新世界の創造。)

The daily sacrifice, more awful really than all the sacrifices of the antique world, stirred him as much by its superb rejection of the evidence of the senses as by the primitive simplicity of its elements and the eternal pathos of the human tragedy that it sought to symbolize. (pp.147-148) as

(古代の犠牲の儀式よりももっと凄絶なカソリックの連日の犠牲の儀式はその要素の原始的な単純さと象徴しようとする人間悲劇の永遠なる悲哀によってのみならず感覚的なものをいっさい否定するときの壮麗さにおいてもまた、彼の心を激しく感動させた。)

The cold marble pavement. (p.148) B A
(敷き詰められたつめたい大理石。)

Stiff flowered vestment. (p.148) B A
(ごわごわした花模様の僧衣。)

White hands. (p.148) B A
(白い手。)

The jeweled lantern-shaped monstrance. (p.148) B A
(宝石をちりばめたランプ形の聖体顕示台。)

The fuming censers, that the grave boys, in their lace and scarlet, tossed into air like great gilt flowers. (p.148) like
(レースと緋の衣を着けた厳粛な少年たちが大きな金の花のように高々と振りまわすゆらゆらと香煙の立ち上る香炉。)

The black confessionals. (p.148) B A
(黒い懺悔室。)

The dim shadow of one of them. (p.148) (them=black confessionals) B of A
(黒い懺悔室のひとつのほの暗い影。)

Pearly cell. (p.148) B A

(真珠のような細胞。)

White nerve in the body. (p.148) B A

(体の白色の神経。)

He knew that senses, no less than the soul, have their spiritual mysteries to reveal.

(p.149) A has B

(彼は魂のみならず感覚にも啓示されるべき霊的な神秘があることを知っていた。)

In violets that woke the memory of dead romances. (p.149) A has B, B of A

(すみれの中に死んだロマンスの記憶を呼び覚まさせた。)

Sweet-smelling roots. (p.149) B A

(甘い匂いを発する木の根。)

Scented pollen-laden flowers. (p.149) B A

(花粉の強い香りの花。)

Aromatic balms. (p.149) B A

(芳香性の樹脂。)

Dark and fragrant woods. (p.149) B A

(黒く香りの強い木。)

A vermilion-and-gold ceiling. (p.149) B A

(朱と金で彩色された天井。)

Olive-green lacquer. (p.149) B A

(オリーブ色の漆を塗った壁)

Yellow-shawled Tunisians. (p.149) B A

(黄色のショールをつけたチュニス人。)

Grinning Negroes. (p.149) B A

(笑っている黒人。)

Copper drums. (p.149) B A

(銅の太鼓。)

Scarlet mats. (p.149) B A

(深紅の敷物。)

Long pipes of reed or brass. (p.149) B A

(長い足笛か真鍮のパイプ。)

Great hooded snakes. (p.149) B A

(大きな頭巾の頭をした蛇。)

Horrible horned adders. (p.149) B A

(角をもった恐ろしい虻。)

Schubert's grace. (p.149) B A

(シューベルトの優雅さ。)

Chopin's beautiful sorrows. (p.149) B A

(ショパンの美しい悲しみ。)

The mighty harmonies of Beethoven himself. (p.149) B of A

(ベートーヴェンの力強い和音。)

The tombs of dead nations. (p.149) B of A

(滅亡した国家の墓地。)

The earthen jars of the Peruvians that have the shrill cries of birds. (p.150) A has B

(鳥の鳴き声のような鋭い音を発するペルー人の焼き物の壺。)

Flutes of human bones such as Alfonso de Ovalle heard in Chile. (p.150) as

(アルフォンソ・ド・オヴァルがチリで聞いたのと同じ人骨の笛。)

Sonorous green jasper. (p.150) B A

(独特の甘美な音を出す緑の碧玉。)

Painted gourds. (p.150) B A

(彩色されたひょうたん。)

The long clarin of the Mexicans. (p.150) B A

(メキシコの長いクラリン。)

The harsh ture of the Amazon tribes. (p.150) B A

(アマゾン族の耳をつんざくチュール。)

The milky juice. (p.150) B A

(乳状のジュース。)

The yotl-bells of the Aztecs, that are hung in clusters like grapes. (p.150) like

(葡萄のように房状につるされたアズテック人のヨットルの鈴。)

A huge cylindrical drum, covered with the skins of great serpents, like the one that Bernal Diaz saw when he went with Cortes into the Mexican temple. (p.150) like

(大蛇の皮が張ってある巨大な円筒形の太鼓。これは、バーナル・ディアズがコルテスとともにメキシコの寺院に入ったときに見たのと同じもの。)

He felt a curious delight in the thought that Art, like Nature, has her monsters, things of bestial shape and with hideous voices. (p.150) like, A has B

(彼は自然のみならず芸術にもまた獣的な形と醜悪な声をもった怪物があるのだという考えに不思議な喜びを感じた。)

The tragedy of his own soul. (p.150) B of A

(魂の悲劇。)

He took up the study of jewels, and appeared at a costume ball as Anne de Joyeuse,

Admiral of France, in a dress covered with five hundred and sixty pearls. (p.150) as

(彼は宝石の研究を始めた。そしてあるときは五百六十個の真珠をちりばめたい衣装に身をつつんでフランスの提督、アンヌ・ド・ジョアイユーズとして現れた。)

Olive-green chrysobery. (p.151) B A

(オリーブ色の金緑玉。)

The cymophane with its wire-like line of silver. (p.151) A has B

(針金のような銀筋の通ったサイモフェイン。)

The pistachio-coloured peridot. (p.151) B A

(ピスタチオの実のような色のかんらん石。)

Rose-pink and wine-yellow topazes. (p.151) B A

(ばら色と鮮やかな黄色をしたトパーズ。)

Carbuncles of fiery scarlet with tremulous four-rayed stars. (p.151) A has B

(ぴかぴかと四筋の光を放つ星をもった赤い紅玉。)

Flame-red cinnamon-stones. (p.151) B A

(炎のように赤い肉桂石。)

Orange and violet spinels. (p.151) B A

(オレンジとスミレの色をもつ鋼玉。)

Amethysts with their alternate layers of ruby and sapphire. (p.151) A has B

(ルビーとサファイアの層が交互に積み重なっている紫水晶。)

Red gold of the sunstone. (p.151) B of A

(日長石の銅金色。)

The moonstone's pearly whiteness. (p.151) B A

(月長石の真珠を思わせる純白。)

The broken rainbow of the milky opal. (p.151) B of A, B A

(乳白色のオパールの壊れた虹色。)

Richness of colour. (p.151) B of A

(色の豊富さ。)

A turquoise de la vieille roche. (p.151) B of A

(年代の古いトルコ玉。)

Eyes of real jacinth. (p.151) B of A

(現実のヒアシンスの眼)

Collars of real emeralds. (p.151) B of A

(現実のエメラルドの襟。)

The exhibition of golden letters and a scarlet robe. (p.151) B A, B A

(金の文字と深紅の衣の展覧会。)

The agate of India. (p.151) B of A

(インド産の瑪瑙。)

The fumes of wine. (p.151) B of A

(ワインの毒気。)

The moon of her colour. (p.151) B of A

(色の月。)

The blood of kids. (p.151) B of A

(子ヤギの血)

A white stone. (p.151) B A

(白い石。)

Golden apples. (p.152) B A

(金の林檎。)

A Margarite of America. (p.152) B of A

(アメリカの真珠雲母。)

Fair mirrors of chrysolites, carbuncles, sapphires, and green emeralds. (p.152) B of A

(かんらん石、柘榴石、サファイア、翠緑石などの美しい鏡。)

Rose-coloured pearls. (p.152) B A

(ばら色の真珠。)

Gold pieces. (p.152) B A

(金貨。)

Gold leaves. (p.152) B A

(金箔。)

A jacket of raised gold. (p.152) B of A

(金の浮き彫り細工の上着。)

Diamonds and other rich stones. (p.152) B A

(ダイヤモンドと他の豊富な宝石。)

A great bauberike about his neck of large balasses. (p.153) B A

(首の周りの大きな紅玉の飾り帯。)

Ear-rings of emeralds. (p.153) B of A

(エメラルドの耳飾り。)

Gold filigrane. (p.153) B A

(金の細線細工。)

A suit of red-gold armour. (p.153) B A

(銅金の鎧。)

A collar of gold roses. (p.153) B A, B of A

(黄金のばらのえり。)

A skull-cap parseme with pearl. (p.153) B A, A has B

(真珠を散らした兜。)

Jewelled gloves. (p.153) B A

(宝石の手袋。)

Twelve rubies and fifty-two great orients. (p.153) B A

(十二のルビーと五十二の上質の大真珠。)

Pear-shaped pearls. (p.153) B A

(梨形の真珠。)

The yellow jonquils. (p.153) B A

(黄色の水仙。)

Nights of horror. (p.153) B of A

(夜の恐怖。)

The story of their shame. (p.153) B of A

(恥辱の物語。)

Flower-like bloom. (p.153) B A

(花のような青春。)

Crocus-coloured robe. (p.153) B A

(クロッカス色の衣。)

Brown girls. (p.153) B A

(褐色の色をした少女。)

Titan sail of purple. (p.153) B of A

(紫の巨大な帆布。)

The starry sky. (p.153) B A

(星のきらめく空。)

White gilt-reined steeds. (p.153) B A

(金の手綱をつけた白馬。)

Table-napkins. (p.153) B A

(食卓のナプキン。)

The mortuary cloth of King Chilperic. (p.154) B of A

(チルペーリック王の屍衣。)

Three hundred golden bees. (p.154) B A

(三百匹の黄金の蜂。)

The fantastic robes. (p.154) B A

(風変わりな衣。)

Gold thread. (p.154) B A

(金糸。)

Thirteen hundred and twenty-one parrots. (p.154) B A

(千三百二十一羽の鸚鵡)

Five hundred and sixty-one butterflies. (p.154) B A

(五百六十一匹の蝶。)

Black velvet powdered with crescents and suns. (p.154) B A, A has B

(三日月と太陽を点々とちりばめた黒いビロード。)

Leafy wreaths and garlands. (p.154) B A

(木の葉の葉飾りや花環。)

A gold and silver ground. (p.154) B A

(金と銀の地。)

Broideries of pearls. (p.154) B of A

(真珠の縁。)

Black velvet. (p.154) B A

(黒いビロード。)

Cloth of silver. (p.154) B of A

(銀の布。)

Gold embroidered caryatides. (p.154) B A

(金糸で刺繍した女身像。)

Smyrna gold brocade embroidered in turquoises. (p.154) B A

(トルコ玉で刺繍したスミルナの金襴。)

Silver gilt. (p.154) B A

(銀メッキ。)

Enamelled and jeweled medallions. (p.154) B A

(宝石をちりばめた七宝。)

Tremulous gilt of its canopy. (p.154) B of A

(黄金の天蓋。)

The dainty Delhi muslins. (p.154) B A

(デリーのモスリン。)

Gold-thread palmates. (p.154) B A

(金糸の手のひらの細工。)

Iridescent beetles' wings. (p.155) B A

(自由に色を変える玉虫の羽。)

The Dacca gauzes. (p.155) B A

(ダッカの紗。)

Their transparency are known in the East as 'woven air', and 'running water' and 'evening dew'. (p.155) as

(透明さのゆえに東洋では「空気の織物」、「流れる水」、「夕露」といった名で知られている。)

Cloths from Java. (p.155) B A

(ジャバの布。)

Elaborate yellow Chinese hangings. (p.155) B A

(中国の精緻をきわめた黄色の壁掛け。)

Tawny satins. (p.155) B A

(黄褐色の縐子。)

Fair blue silks. (p.155) B A

(派手な青絹。)

Veils of lacis. (p.155) B of A

(レースの面紗。)

Sicilian brocades. (p.155) B A

(シシリーの錦織り)

Stiff Spanish velvets. (p.155) B A

(かたいスペイン産のヴェルヴェット。)

Gilt coins. (p.155) B A

(金貨。)

Japanese Foukousas. (p.155) B A

(日本の袱紗。)

Green-toned golds. (p.155) B A

(緑がかった金。)

Marvellously-plumaged birds. (p.155) B A

(みごとな羽のある鳥。)

Fine linen. (p.155) B A

(こまやかなリンネル。)

A gorgeous cope of crimson silk. (p.155) B of A, B A

(深紅の絹の外衣。)

Gold-thread damask. (p.155) B A

(金糸のダマスク織り。)

Golden pomegranates. (p.155) B A

(金色の柘榴。)

Six-petalled formal blossoms. (p.155) B A

(六枚の花びらの花模様。)

Pine-apple device. (p.155) B A

(パイナップルの図案。)

Seed-pearls. (p.155) B A

(種真珠。)

Coloured silks. (p.155) B A

(色つきの絹。)

Green velvet. (p.155) B A

(緑のヴェルヴェット。)

Heart-shaped groups of acanthus-leaves. (p.155) B A, B of A

(アカンサスの葉がハート形に並んだ刺繍。)

Long-stemmed white blossoms. (p.155) B A

(長い茎の白い花。)

Silver thread. (p.155) B A

(銀糸。)

Coloured crystals. (p.155) B A

(色つき水晶。)

A diaper of red and gold silk. (p.155) B of A, B A

(赤と金の絹の菱形模様。)

Amber-coloured silk. (p.155) B A

(琥珀色の絹。)

Blue silk. (p.155) B A

(青い絹。)

Gold brocade. (p.155) B A

(金色の緞子。)

Yellow silk damask. (pp.155 – 156) B A

(黄色の絹のダマスク。)

Cloth of gold. (p.156) B of A

(金の布。)

White satin. (p.156) B A

(白い絹子。)

Pink silk damask. (p.156) B A

(ピンクの絹のダマスク。)

Crimson velvet. (p.156) B A

(深紅のヴェルヴェット。)

Blue linen. (p.156) B A

(青いリンネル。)

Means of forgetfulness. (p.156) B of A

(忘却の手段。)

Purple-and-gold pall as a curtain. (p.156) B A, as

(カーテンとしての紫と金色の棺衣。)

Pride of individualism. (p.156) B of A

(個人主義の誇り。)

The misshapen shadow. (p.156) B A

(奇形な影。)

White walled-in house. (p.156) B A

(白壁の家。)

Such a part of his life. (p.156) B of A

(人生のそのような部分。)

Ugliness of the face. (p.157) B of A

(醜悪な顔面。)

Its marked likeness to himself. (p.157) A = B

(彼そっくりの相貌。)

Wanton luxury and gorgeous splendour of his mode of life. (p.157) B of A

(勝手放題の贅沢と眼も眩むばかりの暮らしぶり。)

Men would whisper to each other in corners, or pass him with a sneer, or look at him with cold searching eyes, as though they were determined to discover his secret. (pp.157 – 158) as though

(人々は部屋の片隅でひそひそとささやきあい、冷笑を浮かべて傍を通り過ぎ、あるいは

どうしても秘密を嗅ぎ出そうと探るような冷たい目で彼を見た。)

The canons of good society are, or should be, the same as the canons of art. (p.158) as
(良き社会の規範は芸術の規範と異ならない。)

Is Insincerity such a terrible thing? (p.158) A = B
(不真面目とはそのような恐ろしいものですか。)

He used to wonder at the shallow psychology of those who conceive the Ego in man as a thing simple, permanent, reliable, and of one essence. (p.159) as
(人間の自我は単純で永続的で信頼ができ、ひとつの本質をもっていると考えた人間の浅はかな心理を彼はいつも不思議に思う。)

To him, man was a being with myriad lives and myriad strange legacies of thought and passion, and whose very flesh was tainted with the monstrous maladies of the dead. (p.159) A has B, B of A
(彼にとって、人間とは無数の生活と無数の感覚を持ち思想と情熱の不思議な遺産をうちに秘め死者の異様な疾病に肉体を冒された複雑な存在なのだ。)

The gaunt cold picture-gallery. (p.159) B A
(暗い冷たい田舎の画廊。)

Gold-embroidered red doublet. (p.159) B A
(金糸で刺繍された赤い胴衣。)

Jewelled sur-coat. (p.159) B A
(宝石をちりばめた外衣。)

Gilt-edged ruff and wristbands. (p.159) B A
(金で縁取りされた襷襟と袖口。)

Silver-and-black armour. (p.159) B A
(銀と黒の甲冑。)

Gauze hood. (p.159) B A
(紗の頭巾。)

Pearl stomacher. (p.159) B A
(真珠色の胸あて。)

Pink slashed sleeves. (p.159) B A
(薄紅色の袖。)

An enameled collar of white and damask roses. (p.159) B A, B of A
(白と淡紅色のばらの七宝の首飾り。)

Oval heavy-lidded eyes. (p.159) B A
(卵形をした重たいまぶたの眼。)

Powdered hair. (p.160) B A

(粉をかけた髪。)

Fantastic patches. (p.160) B A

(風変わりな化粧裂。)

Delicate lace ruffles. (p.160) B A

(精妙なレースの袖襷。)

The lean yellow hands. (p.160) B A

(やせ細った黄色い手)

Chestnut curls. (p.160) B A

(茶褐色の巻き毛。)

The world had looked upon him as infamous. (p.160) A = B

(世間は彼を不埒な人間とみなしていた。)

A pallid, thin-lipped woman in black. (p.160) B A

(黒い服を着た蒼ざめた薄い唇の女。)

Wine-dashed lips. (p.160) B A

(葡萄色がかった濡れた唇。)

Loose Bacchante dress. (p.160) B A

(バッカス神に仕えるゆったりした衣。)

Vine leaves. (p.160) B A

(葡萄の木の葉。)

Depth and brilliancy of colour. (p.160) B of A

(すばらしい色と深みの輝き。)

One had ancestors in literature, as well as in one's own race. (p.160) A has B

(人は彼自身の種族ばかりではなく文学の中にも祖先を持っている。)

It seemed to him that in some mysterious way their lives had been his own. (p.161)

A = B

(ある神秘によって、彼らの生活がそのまま彼自身の生活であったように彼には思えた。)

He had sat, as Tiberious, in a garden at Capri, reading the shameful books of Elephantis.
(p.161) as

(彼は、カプリの庭にティベリウスのように座り、エレファンティスの恥ずべき書を読んでいた。)

As Caligula, had caroused with the green-shirted jockeys in their stables. (p.161) as, B A

(カリグラのように緑色のシャツを着た騎手と厩の中で酒宴をした。)

An ivory manger. (p.161) B A

(象牙の秣桶。)

A jewel-frontleted horse. (p.161) B A

(宝石をちりばめた帯飾りを額につけた馬。)

As Domitian, had wandered through a corridor lined with marble mirrors. (p.161)

A = B

(ドミシアンとなって、大理石の鏡が並ぶ廊下をさまよった。)

Haggard eyes. (p.161) B A

(憔悴しきった眼。)

The reflection of the dagger. (p.161) B of A

(短剣の影。)

Sick with that ennui. (p.161) A has B

(倦怠を伴う疾病。)

The red shambles. (p.161) B A

(赤い屠殺場。)

A litter of pearl and purple. (p.161) B of A

(真珠と紫色のかご。)

Silver-shod mules. (p.161) B A

(銀の蹄をつけた騾馬。)

The street of Pomegranates. (p.161) B of A

(柘榴並木。)

A House of Gold. (p.161) B of A

(黄金の屋敷。)

As Elagabalus, had painted his face with colours. (p.161) as, A has B

(エラガバルスのように顔に絵の具を塗る。)

As in some curious tapestries or cunningly-wrought enamels, were pictured the awful and beautiful forms of those whom Vice and Blood and Weariness had made monstrous or mad. (p.161) as

(「悪徳」と「血」と「倦怠」とによって怪物や狂人と化した人々の恐ろしくも美しい姿が不思議なタペストリーか精巧な七宝焼きに描かれた絵のように表現されていた。)

A scarlet poison. (p.161) B A

(深紅の毒薬。)

Pietro Barbi, the Venetian, known as Paul the Second. (p.161) as

(ポール二世として知られるヴェニス人、ピエトロ・バルビ。)

The price of a terrible sin. (p.161) B of A
(恐ろしい罪の代償。)

White horse. (p.162) B A
(白い馬。)

A pavilion of white and crimson silk. (p.162) B of A, B A
(白と深紅の絹の大天幕。)

A boy that he might serve at the feast as Ganymede of Hylas. (p.162) as
(饗宴にガニミードやハイラスのごとく使えさせた少年。)

Ezzelin, whose melancholy could be cured only by the spectacle of death, and who had a passion for red blood, as other men have for red wine. (p.162) as
(死の光景を見ることによってのみ癒される憂鬱にさいなまれたエゼリン。彼は他の人が赤い葡萄酒に焦がれると同様に赤い血に恋焦がれた男。)

The name of Innocent. (p.162) B of A
(無垢という名前。)

The blood of three lads. (p.162) B of A
(三人の少年の血。)

Lord of Rimini, whose effigy was burned at Rome as the enemy of God and man. (p.162) as
(その似姿が神と人間の敵としてローマで焼かれたリミニ卿。)

Saracen cards painted with the images of Love and Death and Madness. (p.162) B of A
(愛と死と狂気の象徴が描かれたサラセンのカード。)

Trimmed jerkin. (p.162) B A
(飾りついた短い上着。)

Jewelled cap. (p.162) B A
(宝石をちりばめた帽子。)

Acanthus-like curls. (p.162) B A
(アカンサスのような巻き毛。)

The yellow piazza of Perugia. (p.162) B A, B of A
(ペルギアの黄色い広場。)

A helmet and a lighted torch. (p.163) B A
(兜と火をつけた松明。)

An embroidered glove. (p.163) B A
(刺繍つきの手袋。)

A jeweled fan. (p.163) B A
(宝石つきの扇。)

A gilded pomander. (p.163) B A
(金箔つきの香料箱。)

An amber chain. (p.163) B A
(琥珀の鎖。)

There were moments when he looked on evil simply as a mode through which he could realize his conception of the beautiful. (p.163) as
(自分がいだいている美の概念を実現する一手段に過ぎないと悪を見ていた瞬間があった。)

Chaper12

The collar of his grey ulster. (p.164) B of A, B A
(灰色のアルスター外套。)

Fur coat. (p.164) B A
(毛皮の外套。)

Dutch silver spirit-case. (p.165) B A
(オランダ製の銀の酒器。)

Some siphons of soda-water. (p.165) B of A
(炭酸水のサイホン。)

Large cut-glass tumblers. (p.165) B A
(カットグラスの大コップ。)

Gold-tipped cigarettes. (p.165) B A
(金口の巻き煙草。)

I believed he married Lady Radley's maid, and has established her in Paris as an English dressmaker. (p.165) as
(彼は、ラッドリー婦人の召使いと結婚した。そしてパリでイギリス人のドレスメーカーとして商売を始めているらしい。)

Brandy-and-soda. (p.166) B A
(炭酸水とブランディ。)

Hock-and-seltzer. (p.166) B A
(白葡萄酒とセルツァー。)

Don't frown like that. (p.166) like
(そんなしかめ面をするな。)

You don't want people to talk of you as something vile and degraded. (p.166) as
(あなたは、他人が君の事を下劣な墮落者と話しているのを望んではまい。)

Sin is a thing that writes itself across a man's face. (p.166) A = B

(罪は人の顔にありありと表れるものだ。)

A man like the Duke of Berwick. (p.167) like

(バーウィック公爵のような人。)

Pure-minded girl. (p.167) B A

(純な心の娘。)

Chaste woman. (p.167) B A

(貞節な婦人。)

Such blood as he has in his veins. (p.168) as

(彼のような血を持つ人。)

What sort of lives do these people, who pose as being moral, lead themselves? (p.168) as

(様子だけはいかにも道徳的であるという人々もどのような生活を送っているのか。)

The native land of the hyporite. (p.168) B of A

(偽善者の発祥地。)

All sense of honour, of goodness, of purity. (p.168) B of A

(名誉と善良と純粹の感覚。)

Yet you can smile, as you are smiling now. (p.168) as

(君は笑っている。現に今、笑っている。)

A single decent woman. (p.169) B A

(唯一の立派な女。)

Such a life as will make the world respect you. (p.169) as

(世間から尊敬されるような生活。)

Don't shrug your shoulders like that. (p.169) like

(そんな風に肩をすぼめるな。)

Deep-toned sorrow. (p.170) B A

(深い哀調。)

The madness of pride. (p.170) B of A

(狂った誇り。)

The origin of all his shame. (p.170) B of A

(彼の恥の根源。)

You must not say things like that. (p.170) like

(そんなことを口にするものではない。)

A twisted flash of pain. (p.170) B of A

(歪みきった苦痛の表情。)

Frost-like ashes. (p.171) B A

(霧のような灰。)

A curl of contempt. (p.171) B of A

(軽蔑の歪み。)

Chaper13

Fantastic shadows. (p.172) B A

(夢幻的な影。)

A cold current of air. (p.172) B of A

(冷たい空気の流れ。)

A flame of murky orange. (p.172) B of A, B A

(陰気なオレンジの炎。)

The room looked as if it had not been lived in for years. (p.172) as if

(その部屋はあたかももう何年も人が住んだ気配のない部屋である。)

A faded Flemish tapestry. (p.172) B A

(色褪せたフランドル産のタペストリー。)

A curtained picture. (p.172) B A

(覆いのかかった絵。)

Old Italian cassone. (p.172) B A

(古いイタリア製のかねびつ。)

A half-burned candle. (p.172) B A

(燃えさしの蠟燭。)

A damp odour of mildew. (p.172) B of A

(湿っぽいかびの匂い。)

An exclamation of horror. (p.173) B of A

(恐怖の叫び。)

The dim light. (p.173) B A

(薄暗い光。)

He felt as if his blood had changed in a moment from fire to sluggish ice. (p.173) as if

(彼は、全身の血が一瞬にして焰から鈍い氷に変わってしまったように感じた。)

The eyes of a sick man. (p.173) B of A

(病人のような眼。)

The passion of the spectator. (p.173) B of A

(観客の情熱。)

A flicker of triumph. (p.173) B of A

(勝利の明滅。)

The wonder of youth. (p.174) B of A

(青春の驚異。)

The wonder of beauty. (p.174) B of A

(美の驚異。)

The cold mist-stained glass. (p.174) B A

(霧で彩られた冷たいガラス。)

Such an ideal as I shall never meet again. (p.174) as

(二度と会うことができないような理想。)

The face of a satyr. (p.174) B of A

(色情狂の顔。)

The face of my soul. (p.174) B of A

(魂の顔。)

The eyes of a devil. (p.174) B of A

(悪魔の眼。)

The surface seemed to be quite undisturbed, and as he had left it. (p.175) as

(表面は全く手を加えられた様子はなく、バジルが描いたままだった。)

Some strange quickening of inner life. (p.175) B of A

(内なる命のある不可思議な刺戟。)

The leprosies of sin. (p.175) B of A

(罪の業病。)

The rotting of a corpse. (p.175) B of A

(死骸の腐敗。)

The prayer of your pride. (p.175) B of A

(傲慢な祈り。)

The prayer of your repentance. (p.175) B of A

(改悛の祈り。)

Tear-dimmed eyes. (p.175) B A

(涙でかすんだ眼。)

Though your sins be as scarlet, yet I will make them as white as snow. (p.175) as

(あなたの罪は深紅のようであるけれども、わたしはそれらを雪のように白くするだろう。)

Suddenly an uncontrollable feeling of hatred for Basil Hallward came over him, as though it had been suggested to him by the image on the canvas, whispered into his ear by

those grinning lips. (p.176) as though

(突然、バジル・ホールウォードに対する憎悪の感情が襲ってきた。あたかも、画布に描かれた像が吹き込み、にやりと笑う唇が彼の耳にささやいたかのようであった。)

The mad passion of a hunted animal. (p.176) B of A

(追い詰められた動物の狂った情熱。)

The painted chest. (p.176) B A

(彩色された箱。)

Hallward stirred in his chair as if he was going to rise. (p.176) as if

(ホールウォードは椅子から今にも起き上がりそうな気配でした。)

Grotesque stiff-fingered hands. (p.176) B A

(指をこわばらせた不気味な手。)

The black seething well of darkness. (p.176) B A, B of A

(黒く渦巻く暗黒の井戸。)

Long fantastic arms. (p.176) B A

(長い怪奇な腕。)

The red jagged tear. (p.176) B A

(赤いずたずたの裂傷。)

The clotted black pool. (p.176) B A

(黒い塊の液体。)

The sky was like a monstrous peacock's tail. (p.177) like

(空は、巨大な孔雀の尾のようだった。)

Myriads of golden eyes. (p.177) B of A, B A

(幾千の金の瞳。)

The long beam of his lantern. (p.177) B of A

(角灯の発する長い光線。)

The silent houses. (p.177) B A

(沈黙の家。)

The crimson spot. (p.177) B A

(深紅の地点。)

The gas-lamps. (p.177) B A

(ガスランプ。)

Black iron branches. (p.177) B A

(黒い鉄のような枝。)

The fatal portrait. (p.177) B A

(宿命の肖像画。)

Dull silver inlaid. (p.177) B A

(いぶし銀の工芸品。)

Arabesques of burnished steel. (p.177) B of A

(磨き上げた鋼鉄のアラベスク。)

Coarse turquoises. (p.177) B A

(荒削りなトルコ玉。)

It was like a dreadful wax image. (p.177) like

(それは恐ろしい蠟人形のようにだった。)

The woodwork creaked, and seemed to cry out as if in pain. (p.177) as if

(足元では板が軋り、あたかも苦痛の悲鳴のように聞こえた。)

A madness of murder. (p.178) B of A

(殺人の殺気。)

Red star. (p.178) B A

(赤い星。)

The flash of the bull's eye. (p.178) B of A

(雄牛の眼の閃光。)

The Blue Book. (p.179) B A

(紳士録。)

3

第八章から第十三章、シビルの自殺からバジル殺害にいたる物語の進行の中で、暗示的に類似性が示される表現は、先稿とは比べものにならないほどその数を増している。あるものの一部分から全体を想起させたり、あるものを何らかの点でそれと関係ある別のもので美的世界を表現する技法はワイルドの唯美的世界を髣髴とさせるものであるが、特に今回取り上げたこれらの各章に限り、ただそれだけに留意するのは早計と捉える必要がある。美に対する過剰な修飾表現が罪の意識に悩むドリアンの心の葛藤を少しでも和らげ麻痺させることが叶うなら、ドリアンはしばしの心の安寧をそれによって取り戻すこともできたであろう。

特に、第十一章に書かれている数々の香料、宝石、手器、壁掛け、法衣などのディレクタント的趣味の記述は、主人公ドリアンの殺人に対する罪の忘却の一助になっているものと想定できる。ドリアンが心の救いとして希求した本はロマン主義的な意識と科学的性質を持ったパリの青年の心理的研究書といったもので Huysmans の 'A Rebours' の主人公

ジャン・デ・ゼッサントに相当させたものと推察できる。この小説の文体についてワイルドは次のように記述している。

The style in which it was written was that curious jeweled style, vivid and obscure at once, full of argot and of archaisms, of technical expressions and of elaborate paraphrases, that characterizes the work of some of the finest artists of the French school of Symbolistes.

There were in it *metaphors* as monstrous as orchids, and as subtle in colour. (p.140)

目に見える躍動的なものと不明瞭なものを併せ持ち、古文体や専門用語や精巧な意識で満ち溢れている。フランス象徴派のすぐれた芸術家の作品にはこういった特徴のあるものが少なくない。蘭を思わせる怪奇で不思議な色彩を帯びたメタファーが幾つも含まれていた。

このようにワイルド自らメタファーを多用することを認知し予告していることは注目に値する。本稿2で考察したようにその関係は通例の語相互の結合とは異なった結合になっている。特に「同格を表す of」を用いたものや「形容詞または形容詞的名詞＋名詞」の形式が多いことは特筆すべきことである。ワイルドはこれらのメタファーの持つイメージをより豊かに用いることでドリアンの心の奥深くに潜む憂愁を瞬間的に斬新な歓喜へと導き紛らわす手段としたに違いない。それにしても、この物語の進展の中で肖像画の劇的な変化を目の当たりにした時、読者のほとんどは不安と言う名の自己の情緒変化に気付くであろう。破綻の予測のつかない内的な緊張は「生」と「死」を現実のものと捉える意識をほどよく加速する。ドリアンの揺れ動く感情はメタファーの多様な効果に相乗し、読者の感性をも大きく振動させ続けるのに十分な効果を発揮しているものと思われる。ドリアンの魂の行き着くところ、それはドリアンの新ヘドニストとしての成功なのか、それとも「死」の宿命のみを待つ俗物なのか、これらを判断する上においても、ワイルド独特のレトリック手法が読者の想像力に大きな影響を与えていることは間違いないものと思える。また、メタファーやシミリの多様な色彩に関する使い方から、ワイルドはドリアンを可視的な世界に生きる人間として描いているとも想定できる。そのことについて、物語の中では次のように記載されている。

Like Gautier, he was one for whom 'the visible world exsisted'.

(p.144)

ゴーチェ同様、ドリアンもまた「可視的な世界が存在している」人であった。

さらに、バジル殺害の翌日に手にした本もまた、ゴーチェの 'Emaux et Camees' であった。それは、ジャックマールの版画が付いた日本紙製のシャンパンティエ版である。装丁は 'citron-green leather' で点々と柘榴をあしらった 'gilt trellis-work' が施されていた。繰り返し述べているように、この色彩感に溢れた恍惚感がドリアンの罪の想念を一時的に葬り去ることになったことは事実である。

ヘンリー卿のいう永遠の美と若さとは何よりも外界と内界の両方に関わる統合的な感受性を絶えず刷新し深化拡大していく過程を意味するに他ならない。これこそ、ドリアンの新人生観としての礎になければならないものであった。ドリアンがバジルを殺害した夜に彼の目に映った夜空の光景は次のように輝くばかりの美しさである。その表現はメタファーによって拡大し目を覆うばかりの燦然たる輝きを放っている。

The wind had blown the fog away, and the sky was like a monstrous peacock's tail, starred with myriads of golden eyes. (p.177)

風は霧を吹き払い、夜空は無数の金の瞳を星のようにちりばめた巨大な孔雀の尾を思わせた。

あのドリアンを悩まし続けた忌まわしい肖像画の良心はバジル殺害という契機にドリアンという「悪」によって表面上は葬り去られたことになる。つまり、バジルを「善」と仮定するならドリアンという「悪」が「善」を刺し殺したことになる。しかし、ドリアンにとってこの殺人という出来事が、彼の「生」の追及という新人生観の大きな転換期にさしかかることになる。そのことに触れて山田勝氏はバジル殺害直後のドリアンの心境を次のように述べている。

このドリアンの爽快さはまさしく良心の抹殺による青春の美と罪の追究の純粹性を意味するものに他ならない。殺人という手段によって、ドリアン個人の欲望達成の障害物を取り除いたという点において、完全なる個人主義を貫いたのであり、彼のデカダンスが絶頂に達したのである。⁽¹⁰⁾

このように障害を取り除くことで、たとえドリアンのデカダンスが絶頂期を迎えたとしても、読者はその後も言い知れない不安の継続の糸をたどり続けるのである。それは、あのピアズリーが「白」と「黒」の画布上の領界から多くの読者に不安を投げかけたのと同様に、ワイルドの修辞表現と相まって、「生」と「死」の不安の連鎖はとどまることを知らず、多くの読者の心を覆い続けたのである。

メタファーやシミリを使うことで、生、死、美、醜を誇張し、人間の真の尊厳に迫る姿勢こそ、ワイルドの芸術家としての壮麗な純粋性と芸術至上主義者としての姿勢なのかもしれない。

注

底本は、Wilde, Oscar, *The Picture of Dorian Gray* (Penguin Books, 1976) のものを用いた。本文中にページ数を記す。

1. Lakoff, G., & Johnson, M. *Metaphors We Live By* The University of Chicago Press (渡辺昇一・楠瀬淳三・下谷和幸訳「レトリックと人生」p. 3. 大修館書店、1980)
2. 三嶋君夫「ワイルドの修辞表現」(大手前短期大学「研究集録」第25号、2006) p. 452.
3. Ibid., p. 452.
4. Ibid., p. 453.
5. Ibid., p. 453.
6. Ibid., p. 455.
7. Ibid., p. 455.
8. Ibid., p. 455.
9. Ibid., p. 456.
10. Ibid., p. 456.
11. Ibid., p. 458.
12. Ibid., p. 462.
13. Ibid., p. 463.
14. Ibid., p. 464.
15. 荒木一雄・大沼雅彦・豊田昌倫編「英語表現辞典」(研究社、1985) p. 715.
16. 三ツ星堅三・内田能嗣・上山泰・山田勝・横山徳爾編「イギリス小説とモラルティ」(創元社、1978) p. 120.

参考文献

- Chai, Leon *Aestheticism The Religion of Art in Post-Romantic Literature*, Columbia University Press, 1990
- Ellman, Richard *The Artist as Critic; Critical Writings of Oscar Wilde*, The University of Chicago Press, 1969
- Holland, Vyvyan *Complete Works of Oscar Wilde*, Collins Clear-Type Press, 1981
- Lakoff, G., & Johnson, M. *Metaphors We Live By* The University of Chicago Press (渡辺昇一・楠瀬淳三・下谷和幸訳「レトリックと人生」大修館書店、1980)
- Smith and Helfaud *Oscar Wilde's Oxford Notebooks*, Oxford University Press, 1989
- Trodd, Barlow, Amigoni *Victorian Culture and the Idea of the Grotesque*, Ashgate, 1999

- Wilde, Oscar The Picture of Dorian Gray, Penguin Books, 1976
荒木一雄・大沼雅彦・豊田昌倫編「英語表現辞典」(研究社、1985)
池田拓朗著「英語文体論」(研究社、1992)
河村錠一郎著「ビアズリーと世紀末」(青土社、198?)
河村錠一郎著「世紀末と美学」(青土社、1986)
平井博著「オスカーワイルドの生涯」(松柏社、1979)
平井博著「オスカーワイルド考」(松柏社、1980)
三嶋君夫「ワイルドの修辞表現」「小説ドリアン・グレイの肖像」に言及して(大手前短期大学「研究集録」第25号、2006)
山田勝著「世紀末とダンディズム」(創元社、1981)
リチャード・D・オールティック著 要田圭治・大島浩・田中孝信訳「ヴィクトリア朝の人と思想」(音羽書房鶴見書店、1998)

キーワード：視覚 聴覚 触覚 味覚 嗅覚

Keywords: vision, sound, touch, taste, smell